



## 出藍の誉

校長 伊藤 栄司

早いもので4月に始まった令和6年度も残すところ後ひと月となりました。3月は授業日数が15日しかないため、あっという間に卒業式や修了式を迎えることになりそうです。

新校舎への引っ越しで始まった4月。6月には三十周年・新校舎落成記念式典の実施、10月には新校舎での初めての運動会等忙しくも充実した1年間でした。特に、最高学年の6年生は様々な場面でリーダーシップを発揮し中心になって活躍してくれました。

### 青は藍より出でて藍より青し

「藍色の染料は草の藍からとれるが、元の藍草よりももっと青くなる」ことから、弟子が師よりも優れていることのたとえとして使われます。元は弟子の優秀さを褒める言葉ですが、表題の「出藍の誉」は師匠（先生）にとっても教え子が自分を超越立派な大人になってくれることが一番の誉であり、喜びであると表現しています。

今年1年間を振り返ってみると、何事にも一生懸命取り組み素晴らしい成果を残してきた6年生には様々な場面で出藍の誉れを感じました。

例えば、以前にもご紹介した陸上競技会での100m×4リレーの男女優勝です。個々の力だけでなく正確なバトンパスや友達を信じ抜く気持ちなど大人でもかなわないと思う瞬間でした。また、この素晴らしい記録を残した国立競技場からの帰りの電車の中でもさらに出藍の誉れを感じることがありました。

### 超える姿

千駄ヶ谷から電車に乗ると、大学生くらいの男性が私の前に座っていました。よく見ると水筒の蓋がずれていて、お茶らしきものが下にこぼれていました。指摘すると男性は慌てて蓋を締め直したのですが、何も持っていなかったのか、こぼれたお茶を足で延ばし始めたのです。困った人だと思って見ていると私の隣にいた6年生がリュックからティッシュを出して、「使ってください」と渡してくれたのです。困っている人がいたら助けるのは基本中の基本かもしれませんがなかなかできる事ではありません。同時に何もしないで見ていた自分を恥ずかしく思いました。

さらに、お茶を拭き終わった汚れたティッシュの始末に困っている姿を見つけると、別の6年生が自分のゴミ袋を差し出し、「ここに入れてください」と言ったのです。人のために全力を尽くせる人になりましょうというつも話していますが、こんなにもさりげなく人助けができる素敵な姿をみて子どもたちの大きな成長を感じました。

### これからもずっと

電車での姿は一例に過ぎません。いつも心がけているからこそできる行動です。お茶の水小を代表する6年生の中に素晴らしい行動ができる子どもがいることを嬉しく思いながら電車を降りました。

いつも一致協力して頑張っていた6年生には、小学校で身に付けた力を使って中学校でもさらに力を伸ばしてくれることを願っています。そして、より多くの人と接する中で自分自身を磨き、先生方を超えられるよう大きく成長してくれることを期待しています。お茶の水小の先生方はさらに立派に成長した6年生に会える日を楽しみにしながらいつまでも応援しています。

皆様のお陰で立派な6年生を送り出すことができます。厚く御礼申し上げ、令和6年度「お茶の水の子」の結びといたします。ありがとうございました。